

■青柳瑞穂 詩人, 仏文学者, 翻訳家, 古美術発掘家。佐野乾山事件に巻き込まれ, 無念の結末。

あおやぎみずほ

Bushidou・1899= 山梨県高田村で, 裕福な地主で漢詩人として知られた青柳直道の4男5女の末子に生まれる。

日露戦争始・1904= 5歳 : 兵士らが村に野外演習に来た際, 宿泊した士官らから御馳走して貰ったハイカラな味が忘れられず,
日露戦争終・1905= 6歳 :

青柳家はかつては質屋を営んだことがあり, 土蔵には数多くの書画骨董の類が収められていて, 幼い頃からそこで遊ぶことを楽しみにしたという。

アヲキ創刊・1908= 9歳 :

高田村小学校では, 小沢征爾の父小沢開作と同級。

明治天皇没・1912=13歳 :

ロシア革命・1917=18歳 : 県立甲府中学校を卒業。すぐには進学せず, フランス語を独学し,

ベルリン条約・1919=20歳 : 上京して, 慶大文学部仏文科予科に入学。蔵原伸二郎と出会い, 萩原朔太郎の詩を知る。
東大法学部学生だった野尻清彦(大仏次郎)ともフランス文学通じて親しくなり, 淀橋の借家で共同生活,

原敬首相暗殺1921=22歳 : 蔵原とともに{三田文学}に詩を発表,

水平社結成・1922=23歳 : 西大久保の借家に移る。ピアノや楽譜があって, 同級生の溜り場になり,

関東大震災・1923=24歳 : 卒業後も定職につかず, 堀口大學に師事, 師の関係する雑誌に, 創作詩の発表を続けて行くが,
同級になった奥野信太郎も入り浸りに。静岡県引佐郡伊平の広大な山林を所有する富裕な地主山本家の娘とよと結婚して荻窪に住み, ”できちゃった婚”で, 入籍しただけで結婚式は行っておらず,

護憲三派圧勝1924=25歳 : 長男が誕生。山本家が所有する阿佐ヶ谷の貸家に転居, ”阿佐ヶ谷文士村”草分けとなる。結婚して近くに越してきた蔵原から, 彼が古道具屋で買った安い皿を見せられて魅了され,

円本時代始・1926=27歳 : 卒業後も定職につかず, 堀口大學に師事, 師の関係する雑誌に, 創作詩の発表を続けて行くが,

金融恐慌・1927=28歳 : 義父との不和から, やはり阿佐ヶ谷の山本家の持家に転居, 終の住処となる。長女が誕生。荻窪に越してきた井伏鱒二との交流も始まる。

共産党事件・1928=29歳 : 請われて作詞した慶應義塾の第二応援歌「丘の上」は, 学生・OBに親しまれ, 歌い継がれている。礼金70円は宋代の玳瑁蓋天目となって消える。

満州事変・1931=32歳 : 詩集「睡眠」を刊行。蔵原らが創刊した同人誌(雄鶏)に参加して詩を発表して以降, *詩作から離れ, 骨董の世界に没入していく。生活の資のためと, フランス文学の翻訳が多くなるものの, 生家からは勘当同然で, 生活費の大半は山本家当主となったとよの兄で慶大仏文科出身の少し先輩の気太郎に頼るが, それも骨董に消えて, 妻の苦労は並大抵でないものになって行く。骨董発掘すべく, 頻繁に山本家を訪ね,

国際連盟脱退1933=34歳 : 「仏蘭西新作家集」や「マルドロオルの歌」を刊行, 認められて翻訳家としての地位を確立するが,

帝人疑獄事件1934=35歳 : 蔵原が阿佐ヶ谷を去る。{世紀}創刊号に生涯唯一の小説「隅田川」を発表。

芥川直木賞始1935=36歳 : 鎌倉末期の能面「父尉」や,

二二六事件・1936=37歳 : 翻訳「フランス現代小説」反逆児他4篇)刊行。実父が死去。この年から9年間, 気太郎の長男が東京の学校へ通うために預かる。手狭になり, 気太郎に頼って増築, 阿佐ヶ谷会が開かれる。

日中戦争始・1937=38歳 : 召集されるも, すぐ解除。古物商で光琳の落款ある肖像画「藤原信盈」発見し, 偽物扱いの値段で購入,
総動員+健保 1938=39歳 : *上野で帝国美術院付属美術研究所に勤める慶大同窓の菅沼貞三に偶然に出会い, 鑑定してもらった結果, 尾形光琳唯一の真筆の肖像画「中村内蔵介像」であることが判明, 重要美術品に指定される。骨董への傾斜を一層強め, 文学活動は低調になって行き, 師堀口大學から督励される事態に,

第二次大戦始1939=40歳 : その結果親交が広がった美術の専門家らと, 東大寺三月堂の執金剛拝観に行った帰途, 伊平の山本家に立寄っていた時, 教えられた情報から, 農家を訪ね, 壺に目くらむ思いで入手, 東洋陶磁研究所に鑑定依頼すると「平安時代の自然釉の壺」という極めて貴重なものと判明,

大政翼賛会・1940=41歳 : 翻訳「スエズ運河」出版され, 以後, 翻訳出版続いて相応の収入。帝室博物館の日本文化史展覧会に出陳。

日米開戦・1941=42歳 : 戦局の進展で, レニエ「或る青年の休暇」翻訳するも, 出版許可がおりず。

創価学会検挙1943=44歳 : 「阿佐ヶ谷将棋会」も高麗神社で最後となるが, 自らは全く疎開せず,

敗戦・1945=46歳 : 敗戦を迎え,

新憲法公布・1946=47歳 : 「或る青年の休暇」が出版され, 名記者の評価高まり, 収入を得るようになるも, 骨董とグルメに消え,

極東裁判決・1948=49歳 : 自宅で戦後初の「阿佐ヶ谷会」が開かれてまもなく, *まさに夫の道楽の犠牲となってきた妻とよが青酸カリ

三大事件・1949=50歳 : 第1回戸川秋骨賞。以後, ロートレアモン「マルドロオルの歌」など, 立て続けに翻訳出版,

朝鮮戦争始・1950=51歳 : 創刊された{芸術新潮}に執筆し, 母校慶應の仏文科予科の講師に招かれる。

独立回復・1951=52歳 : 糖尿病で入院, 時々抜け出すうち, 阿佐ヶ谷の飲み屋の女将と内縁関係,

メーデー事件・1952=53歳 : 再び入院,

TV放送始・1953=54歳 : ジュール・ロマン「ブシケ」翻訳出版の年には, 訳書が集中する一方, 父親を認めない息子夫婦との意地の

自衛隊発足・1954=55歳 : 張合いのような共同生活が始まるなか,

55年体制始・1955=56歳 : 女将の娘を養子にする。裏街の骨董屋で, 乾山の「桔梗」を発見, 続けて「朝顔」「秋海棠」も入手し,

{芸術新潮}にエッセイを書き大反響, 乾山への評価も変わり,

この頃, 信州の小島屋でふくろうの雛を入手し, 以後可愛がって育てる。すでに著名な文化人となっていた師堀口大學伊平の山本家に案内し滞在, 山本家が地元で大いに面目を施すことで, 自らも恩返しとなる。

ガスカール「種子」。光琳「中村内蔵介像」は, 奈良に設立準備中の大和文華館に, 原価の30万倍で売却し,

乾山名品展が開かれるに至るも,

重要文化財指定される。

安保闘争・1960=61歳 : 気太郎が肺炎で急逝。初のエッセイ集「ささやかな日本発掘」で読売文学賞後,

全国総合計画1962=63歳 : *戦後最大の贋作事件佐野乾山事件が起き, 論争続くうち, 川端康成にとどめさされて, 打撃受け,

大学紛争始・1965=66歳 : 親友蔵原が死去。

いざなぎ景気1966=67歳 : 阿佐ヶ谷会の亀井勝一郎が死去, 文化勲章うけた井伏鱒二の祝賀会兼ねた追悼会が自宅で開かれる。

震ヶ関ビル・1968=69歳 : 奥野信太郎も死去。モーパッサン「女の一生」訳出直後, 脳溢血を起し,

大共闘・1969=70歳 : 「平安の壺」は, 500万円で京都の古美術商に売却され, 後に沼津のコレクターに渡る。二度目の脳溢血,

大阪万博・1970=71歳 : 随筆集「壺のある風景」に, 乾山への決別の文を書いて,

トロンソック・1971=72歳 : {太陽}に「骨董夜話」連載中, 三度目の脳溢血で入院, まもなく没した。